

りょうぜん天蚕の会だより

【第 10 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 柳沼 泰衛（電話・FAX 024-586-3004）

【 会長あいさつ 】

立春の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度10年目を迎えました。これも偏に会員皆様の熱心な活動と関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、当会の活動趣旨は、霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進しようとするものです。

設立以来、これまで伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援をいただきながら、会員一同一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行っております。

25年度は、原発事故に関係した課題が取り巻く中で約8,800粒の天蚕繭を収穫、天蚕織物による装飾品を製作し「東京有楽町」「京都」「札幌」等で展示販売活動を行い、大日本蚕糸会の「純国産宝絹展」に出展し「伊勢丹新宿店」「高島屋横浜店」で展示され、好評を得るとともに本会の活動状況を全国に紹介することができました。

また、蚕糸・絹業提携システム事業の伊達天蚕推進研究会の活動では天蚕ハイブリット生糸を使用したショールや手工芸品等の生産及び展示等を図ることができました。

26年度は、本会設立10周年を期に、これまでの成果と実績を基にさらなる前進を図る所存でありますので皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



天蚕ショールとハンドバッグ

平成25年度総会開く

～ 第9回通常総会 ～

3月9日（土）午後3時より霊山町大石「りょうぜん里山がっこう」において、会員20名の参加のもと第9回総会が開催された。総会に先立ち柳沼会長より、会員であった菅野広一氏が12月に、また、千葉幹雄氏が2月に急逝したことに伴い、お二人のご冥福を祈りたいと提案で全員で黙とうを捧げた。

会長挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所長菅野正俊様、伊達市物産観光協会事務局長岡崎氏の来賓祝辞があった。菅野氏は天蚕の会の登録商標を助成金が活かされたことに、岡崎氏は阿急保原駅における天蚕の日（10月6、7日）における盛況に対して感謝の言葉と共に今後当会の発展に期待する旨の祝辞が述べられた。

議長に瓜田氏が選出され、24年度事業報告、一般会計報告並びに25年度事業計画、予算案が全員賛成のもと承認された。続いて、役員改選では菅野広一氏の後任幹事に瓜田章二氏、事業部副部長に八島時男氏が推薦され了承された。また、新規会員の石森禎枝さんの自己紹介が行われフレッシュな顔ぶれとなった。



総会に先立ち、希望者9人の参加で貝雛やコサージ製作に取り組んだ。ハマグリ貝をベースに天蚕布を着物に仕立てて女男雛を作った。男女共に薄緑の貝雛と男雛には習練に織った紺色布の衣を着せたものを作り上げて自分なりのお雛様を製作した。



総会後、会場を隣接する「ほっこり」に移し、会長の音頭で乾杯を奉げ懇親会になった。「里山がっこう」の郷土料理に舌鼓を打ち今年度の更なる繭生産増に向けて大いに意気上がった。



りょうぜん天蚕の会だより

エゾノキヌヤナギ剪定実施

～ 収穫の向上を期待し早春の作業 ～

3月24日、天蚕ハウスにおいて会員8名が参加し剪定作業を実施した。若芽が膨らみ緑が鮮やかさを増している。寒い一日であったが午前中に全畑の作業を終了した。



天蚕繭収穫、選別、乾燥作業実施

～ 萌黄色あざやか「天蚕」春蚕収穫～

7月7日、天蚕ハウスと中川集落センターにおいて、会員23名が参加し繭収穫と選別乾燥作業を実施した。収穫数は約8,800個。昨年と同様であったが「黄色繭」が比較的多く収穫された。



天蚕ショール市勢要覧表紙を飾る

～ 伊達市 6 年ぶり発行の市勢要覧 ～

伊達市は 3 日までに、市の概要や魅力などを紹介する市勢要覧を発行した。本編と資料編に分かれ、本編は市の施策や復興への取り組み、市の歴史、観光など。資料編は国勢調査、工業統計、経済センサスなどの統計を中心にまとめられている。



この本編の表紙に我ら「りょうぜん天蚕の会」で製作した「天蚕ショール」が萌黄色鮮やかに掲載されており、多くの市民から問い合わせをいただいている。

裏表紙には天蚕繭の写真とともにショールが次のように紹介されている。

「伊達市は江戸中期から昭和初期にかけて養蚕によって栄えました。表紙の写真は日本古来の蚕「天蚕」の繭で作ったショールです。天蚕の繭は黄緑色をしており、独特の光沢感があります。」と。

(4月4日(木) 民友新聞参照)

皇后さまが「天蚕の山つけ」

～ 代々受け継ぐ養蚕作業 ～

皇后さまは 7 日、皇居内の養蚕施設で「天蚕」と呼ばれる野生種のカイコの卵をクヌギの木に付ける「山つけ」の作業をされた。明治時代から代々の皇后が受け継いできた養蚕作業の一つ。当初は先月末に予定されていたが、皇后さまが肩や腕の痛みを訴えたため延期されていた。

皇后さまは御所の近くにある網で囲われた「野蚕室」の中に入り、1 枚に 25 粒ほどの卵を貼り付けた短冊状の和紙 12 枚を、天蚕が餌とするクヌギの枝に丁寧に巻き付け、ホチキスで留めた。10 日ほどでふ化し、6 月中旬から 7 月にかけて緑がかった繭を作る。

絹糸は、反物や外国元首への贈り物の絹製品に使われる。

(5月8日(水) 民友新聞参照)



「休まんしょ」で天蚕商品展示即売

～ 伊達市健幸都市づくり推進協議会に協賛 ～

10月5日、霊山町掛田の街なかサロン「休まんしょ」の機能を高めるため伊達市健幸都市づくり推進協議会(八島事務局長が委員長を務める)活動の一環として初の「マルシェ」を開催した。出店24店舗が立ち並び述べ1000人が訪れた。



当「りょうぜん天蚕の会」においても遊創塾担当の大友会員が同じテーブルに展示販売して好評を博した。その縁もあり今後サロンが移転新装開店されるに当り当会の商品の展示販売をす

ることとなったので会員皆様のご推奨をいただきたい。

「天蚕布」による「掛け軸」製作

～ 孫の成長を祈り祖父母が贈る ～

9月5日、孫の誕生と成長を祈りお祝いの掛け軸を贈りたいと、生地となる「天蚕布」を茨城県の八巻照雄さんから当会に注文があった。趣旨に賛同した会長と八島事務局長は早速注文に合う生地を選び送付したところ、先日御礼の手紙が届いた。

八巻さんは天蚕布の出来映えに満足し、福井県のメーカーに家紋と立雛の刺繍を依頼し、見事な掛け軸を完成させた。部屋に飾った掛け軸や家族と喜ぶ

りょうぜん天蚕の会
事務局、八島利幸様

日中の日ざしは存お厳しいものがある
ますか朝日の出の音に秋を感じます
です。その後、お返りなくお戻りの事と
存じます。昨夜(9/4)、特選「天蚕布」
を確かに受け取りました。

すばらしい出来映えに満足しております。
入阪中の事に見せられ、福井県の
刺繍メーカーに送り、家紋と立雛を
刺繍してもらい、その後、県内の掛け軸
メーカーに頼み、完成させ、来月の孫様
の祝に使用したく存しております。



孫の写真が同封されていた。

女性講座「フラワーポット」開催

～ 月館中央公民館事業で「天蚕繭工芸」～

9月12日と10月18日、月館中央公民館の女性講座「フラワーポット」が開催された。八島恭子会員が講師を務め20名が参加し、「天蚕」によるコサージュ製作が行われた。天蚕を初めて見る受講生も多く鮮やか繭に驚嘆していた。講座後半は受講生が4班に分かれ、それぞれ知



恵と力を合わせての共同作業は、すばらしい作品に仕上がり好評であった。



NHK(BS)「東北ローカルの旅」テレビ収録

～ 女優室井滋さんが当会を訪問 ～

9月29日11時30分より13時30分まで上記テレビ番組の収録のため女優室井滋さんが当会を訪れた。

会長宅の玄関で用件を話すと早速会長が飼育ハウスに案内した。幸い休んでいたイナバウアー姿の幼虫に感動した。その後、会員5人が一粒紬作業をしていると色々尋ねながら自分も紬体験した。天蚕の持つ天然の輝きにすっかり魅かれた彼女はショールを会長より羽織られると「欲しいわ」と連発。初めはリップサービスかと思われたが本気だという。大友会員からは天蚕糸のイヤリングをはめて貰うと一層華やかさが増しメイク担当者も「合いますね」と言ったものだからその場で現金購入となった。収録された番組は10月20日放映された。



また、室井さんは無類の猫好きで大友さんが持参した絵本「しげちゃん」にもサラサラと猫の絵とサインをされたので望外の喜びを得ました。

むろいしげる： 富山県滑川市生まれ。女優、ライター、エッセイスト、日本アカデミー賞最優秀助演女優賞受賞。

NHK 連続テレビ小説「花子とアン」ヒロイン安東はなの母親の安東ふじ役で出演します。(3月31日スタート)

恒例「天蚕まつり」盛大に開催

～ 阿武隈急行保原駅構内に大勢の来客 ～

10月5、6日の両日、阿武隈急行保原駅構内において「天蚕まつり」を関根商店と協同、市観光物産振興会の協賛で行われた。関根商店も日本大蚕糸会からの助成会社であるため真綿普及活動を義務付けられているもので共同開催となったものである。

天蚕の会は「天蚕コサージ」づくり、天蚕紬、天蚕機織体験がすっかり定着して来た感があり、両日で体験に訪れた人は100人を越えた。また、天蚕コサージの材料が多くの方々から求められるなど、天蚕関連商品の紹介の機会を十分果たした。会員は両日で延べ25名が運営に当った。



大日本蚕糸会「純国産宝絹展」に出展

～ 伊勢丹新宿店と高島屋横浜店で展示 ～

1月2～7日に伊勢丹新宿店、8～12日に高島屋横浜店で、大日本蚕糸会コーディネートによる「純国産 宝展」が開催された。純国産絹を使用して、より良いもの作りに励む全国40数団体の蚕糸・絹業提携グループが作る製品が展示され、活動について紹介された。

我が「りょうぜん天蚕の会」からは、ショールとハンドバッグが展示され、名だたる製品の中にも注目を浴び、次のように紹介された。

「絹のダイヤモンド」と呼ばれる天蚕糸。養蚕業で栄えた伊達市霊山町では天蚕研究と繭生産を行い、天蚕の利用拡大を目指しています。バッグやショールも製作」



りょうぜん天蚕の会

“絹のダイヤモンド”と呼ばれる天蚕糸。養蚕業で栄えた伊達市霊山町では天蚕研究と繭生産を行い、天蚕の利用拡大を目指しています。バッグやショールも制作。問い合わせ／りょうぜん天蚕の会（柳沼泰衛）住所／福島県伊達市霊山町中川字橋本9 ☎024-586-3004



1 在来種の繭や特徴ある品種の繭を展示 2 特別に育てた「生きた蚕」も展示 3 組紐の出張実演を予定 4 大日本蚕糸会が定めた基準に従った、国産絹製品に付けられる「日本の絹」純国産マーク

純国産 宝絹takaraginu展

●日時／平成26年1月8日(水)～12日(日)
10時～20時(12日は18時まで)

●場所／横浜タカシマヤ 8階催会場

●後援／農林水産省 経済産業省 財大日本蚕糸会 シルク博物館

●主催・問い合わせ／蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会
☎03-5642-6527

天蚕母蛾検査を実施

～ 優良種保存の必須作業 ～

2月8日、中川集落センターにおいて会員10名が参加し天蚕母蛾検査を実施した。伝染性病原菌に冒されていないか、健全な種の保存には欠かせない重要な作業である。

約100件ほどの検体を検査したが全て問題なしとのこと。来期の羽化と成長に期待する。



震災の記憶後世に「天蚕」再生へ舞う

～ 霊山で絆フェス「ここに生きる」～

11月17日、伊達市霊山町の霊山地域交流センターで絆フェスティバル「ふるさと霊山ここに生きる」が開かれ、創作芸能を通じ、百年後に向けた希望を地域住民が共有した。NPO法人りょうぜん里山がっこう、実行委員会の主催で、東京の民族歌舞団・荒馬座に指導を受けた市内の主婦ら約30人が、ヤママユの野蚕「天蚕」をイメージした萌黄色した衣装で出演し、「風と水と天蚕の町に」のテーマで合唱と舞踊を組み合わせた創作芸能を披露した。

美しい自然の恩恵を受けていた天蚕が、突然の原発事故に戸惑い、勇気を持ち再生へ立ち上がるまでを演じた。テーマ曲「風に願いを水に願いを」では、「ここに生きる私たちの歌声百年後に蚕霊（こだま）する」という歌詞が来場者の心を打った。地元につながる「桑摘み唄」「真綿かけ唄」を歌うと自然に手拍子が起きた。霊山太鼓の遠征組、北組、い組による「たたき比べ」や「回り打ち」も繰り広げられ、詰めかけた500人は熱のこもった演技に見入っていた。



出演者が輪になりながら太鼓をたたいた「2011 霊山廻り打ち」



機織り・紬研修開催

～ 伝統の技法、真剣に学ぶ ～

2月28日、八島工房（事務長宅）において会員8名が参加し機織り・紬研修が開催された。山根好子先生を講師に迎え、伝統ある機織り・紬の技法を真剣に学んだ。



初めて機織りをする会員もいたが、短時間にもかかわらず、手際よく要領よく織り上げるなど有意義な研修であった



新会員紹介



石森禎枝さん
(いしもりよしえ)
霊山町
(宮城県出身)
市農林業振興公社



丹治純子さん
(たんじすみこ)
霊山町
主婦



松浦妙子さん
(まつうらたえこ)
保原町
主婦

NHK(BS)「きらり！えん旅」テレビ収録 ～ 歌手渡辺真知子さんが当会を訪問 ～



11月7日14時ごろ上記テレビ番組の収録のため歌手渡辺真知子さんが当会を訪れた。

早朝に東京を出発し8時過ぎに福島に到着。天気にも恵まれ、本番スタートは10時半より。リンゴ農家での撮影の後に柳沼会長宅を訪問。天蚕の紹介を受けながら飼育ハウスを見学し糸引きも行った。さらに八島事務局長宅に移動し機織りと天蚕ブローチ製作を体験した。

収録中は度々震災の影響を話されるなど心配されていた。

わたまべまちこ：

横須賀市出身。歌手、シンガーソングライター。
「迷い道」「かもめが翔んだ」など印象的な歌詞と心に残るメロディー多数。
歌唱力は抜群。

糸引きも体験させて頂きましたが、さすが天然だから丈夫で生糸の艶が違います。まさにシルクのダイヤモンドですね！ご覧ください。こーんなに萌え～！！
衰退した養蚕を復活させよう！と地元の方々と会を発足しています！
そして柳沼さんに案内され八島さんのお宅へ…(写真右 柳沼さん、左 八島さん)



ね



江戸時代から使われている繰り機を見学し、特別な生糸で作った商品を見せて頂きました。
震災当時、展示会が中止になったり影響はこちらにも及び、八島さん宅の美しいお庭も放射線により、てがつけれないと…何て事でしょう…
見渡す限りの美しいハズの秋の景色がモノトーンに変わって行く想いです。

リンゴ農家の皆さま、除染民家のご主人さま、
柳沼さん、八島さん、お疲れさまでした。
暖かくご紹介頂き、ありがとうございました。



れ
蚕の繭と天蚕の繭で作られたブローチ、八島さんにプレゼントしていただきありがとうございました。

【渡辺真知子さんのブログに紹介されている訪問の様子】

トピックス

「ソチオリンピック」開催さる

～ 日本メダル8 個歴代2位 ～

第22回冬季五輪ソチ大会が2月7日夜（日本時間8日未明）にロシア南部ソチで開催された。冬期史上最多の87カ国・地域と個人参加のインドから約2870選手が出場し、初採用のスキー・ジャンプ女子などを含む7競技の98種目が実施された。日本は最多の248人、本県関係は男子モーグルの遠藤、スピードスケート穂積ら5人が出場した。



フィギュアスケート男子の羽生結弦(19)が金メダルに輝き、スノーボード男子ハーフパイプで平野歩夢(15)が銀メダル、ジャンプ男子ラージヒルで葛西紀明(41)



が銀メダルを獲得し、日本の冬季五輪メダリストの最年少、最年長記録を塗り替えた。

式年遷宮「内宮遷御の儀」執行さる

～ 伊勢神宮20年に一度の最重要神事 ～

10月2日午後6時頃、伊勢神宮において第62回式年遷宮の遷御の儀が行われた。神宮では原則として20年ごとに内宮（皇大神宮）・外宮（豊受大神宮）の二つの正宮の正殿、14の別宮の全ての社殿を造り替えて神座を遷す。この時、宝殿外幣殿、鳥居、御垣、御饗殿など計65棟の殿舎のほか、装束・神宝、宇治橋なども造り替えられる。



神宮司庁によると、8年前から始まる今回の式年遷宮の全体の費用は約550億円と公表。

2020年「東京五輪」に決定

～ 日本での開催4度目 ～

2020年夏季五輪の開催都市を決める国際オリンピック委員会（IOC）総会は9月7日（日本時間8日）、ブエノスアイレスで行われ、開催都市に東京を選んだ。東京は決選投票でイスタンブールを破り、1964年以来2度目となる開催を決めた。マドリードは1回目の投票でイスタンブールと同票となり、最下位を決める投票で落選した。日本での五輪は72年札幌、98年長野の冬季五輪と合わせ4度目の開催となる。



りょうぜん天蚕の会だより

会員の活動スナップ



